

八陣の図（杜甫）

功蓋三分國 名成八陣圖

江流石不轉 遺恨失吞吳

功は蓋う 三分の国

解説 杜甫の五十四歳のころ、諸葛孔明の残したという八陣の図を見て作ったもの。

名は成る 八陣の図

語釈 ※八陣図 諸葛亮が石を積んで作った陣形。八陣とは天・地・風・雲・飛竜・翔鳥・虎翼・蛇盤の人物にかたどったもの。 ※蓋 圧倒する。 ※三分国 魏・呉・蜀の三国。 ※遺恨失吞吳 呉を滅して併呑（他の勢力を自分の勢力下に入れること）しなかったことを恨むととっておく。

江流るるも 石転ぜず

通釈 諸葛孔明の武功は、魏・呉・蜀を圧倒するほどのものだった。彼

遺恨なり 呉を吞むを失す

の名は八陣の図によっていつそう高くなった。長江の流れにもこの石はびくともしない。惜しいかな、呉を攻めて滅したが、併呑しえなかった。